

談話における「全然」の機能について

—文脈的否定の配慮的側面を中心に—

齊藤幸一（創価大学）

要 旨

本稿は、談話における「全然＋肯定形」の対人機能を発話機能・ポライトネスの観点から分析したものである。ここでは、「全然」と呼応する形式を、「文法的否定」「語彙的否定」「文脈的否定」に三分類し、特に「文脈的否定」に焦点を当て、分析を行った。「文脈的否定」とは、例えば、A「まずいでしょ?」、B「全然おいしいよ」というような「全然」に後続する語が、肯定形であり、その語自体には否定的意味はないが、文脈上においては、否定的意味を有するものである。

分析の結果、「全然＋肯定形」の「文脈的否定」において、ポライトネスの原理に沿った言語行動が見られるものがあり、配慮表現として機能しうることが確認された。

キーワード：「全然＋肯定形」、発話機能、ポライトネス、配慮表現

1. 研究目的

昭和20年頃から副詞「全然」は、否定表現と共に使用されるという規範意識が生まれ、「全然＋肯定形」は、正しくないとして批判されてきた。しかし、梅林(1994)、新野(1997)、小林(2004)、尾谷(2007・2008)などでは、戦前の小説にも「全然＋肯定形」が頻繁に使用されることに触れ、現代日本語として新たな用法を確立し、一般化しつつあることを明らかにした。このように先行研究では、「全然＋肯定形」に関して、共起する語の傾向、用法の変遷など始め、「全然＋否定」が正しいという規範意識がなぜ生まれたのか、などの研究が主流であったが、談話における「全然＋肯定形」の対人機能に言及したものは少ない。

そこで、本稿は、現代における「全然＋肯定形」を研究対象とし、発話機能及びポライトネスの観点から「全然＋肯定形」が対配慮表現として機能することを主張し、それがどのような文脈で使用されるのか、その対人機能の分析及び考察を行いたい。

2. 用語の定義

本稿における用語の定義を行う。本稿において、副詞「全然」と共起する形式を、文法的否定、語彙的否定、文脈的否定という名称で、3分類する。

まず、「文法的否定」とは、「全然」に後続する語が「ず」「ない」などの否定辞を伴うものである。例えば、「全然おいしくない」などが、文法的否定となる。次に、「語彙的否定」とは、「全然」に後続する語は肯定形だが、語そのものに否定的意味を持つものである。例えば、「全然違う」や「全然だめ」などは、肯定形ではあるが、「違う」や「だめ」などの語自体に、否定的意味が含まれている。最後に、「文脈的否定」というのは、「全然」に後続する語が、肯定形であり、その語自体には否定的意味はないが、文脈上においては、否定的意味を有するものである。例えば、Aの作った料理をBが食べている場面で、A「ま

ずいでしょ？」B「全然おいしいよ」と発話した場合、Bの発話「全然おいしい」は、Aが想定している「自分の料理は、まずい（かもしれない）」という文脈を否定している。

3. 先行研究における考察範囲の拡大と問題点

梅林（1995）、新野（1997）、服部（2007）、岡崎（2008）を始めとする多くの先行研究において、「全然」と肯定形の共起や、その肯定形の語の性質について論じている。しかし、足立（1990）では、「全然＋肯定形」は、文脈、あるいは、前提となる概念が「全然」の前に存在することが条件となる用法があることを主張した。そして、野田（2000）、尾谷（2007・2008）では、共起する語だけではなく、文脈も含め、分析されている。松浦・永尾（1996）が指摘するように『『全然』と共起する語については、『下に否定の語が伴う』かどうかというようなことではなく、それがどのような文脈（あるいは現場）にあるかということから出発しなければ、十分な解答は得られないのではあるまいか」と、共起する語そのものから、文脈を伴ったアプローチへと考察範囲が広がっている。

しかし、先行研究では「全然＋肯定形」が、実際にはどのような場面で使用されているのか、またどのような対人機能を有しているのか深く考察したものは見当たらない。

そこで、本稿では、現代の談話における「全然＋肯定形」の文脈的否定を中心に、それらがどのような場面で用いられるのか、山岡の「発話機能論」を援用し、考察していく。また、対人機能の配慮性に関しては、Leechのポライトネスの原理、Brown&Levinson（以降、B&L）のポライトネス理論を相補的に援用し、また、山岡他（2010）の配慮表現の原理を用いて、「全然＋肯定形」の配慮のメカニズムを解明しようと試みる。

4. 配慮表現「全然＋肯定形」について

まず、副詞「全然」の意味を確認すると、梅林（1995）、新野（1997）、尾谷（2007・2008）にあるように、＜何から何まで、完全に＞である。これらの先行研究では、「全然＋肯定形」の本来の意味が結果として程度の強調を表すとしているが、本稿では、それがさらに対人配慮性にも関わる場合があること主張する。

配慮表現「全然＋肯定形」の例としては、文脈的否定の例で先述したが、Aの作った料理をBが食べている場面で、A「まずいでしょ？」、B「全然おいしいよ」と発話した場合のBの発話がそれにあたる。ここでは、Bの発話「全然おいしい」は、Aが想定している「自分の料理は、まずい（かもしれない）」という文脈を否定することにより、Aの料理に対して「おいしい」という《賞賛》に加え、さらにそれを強調している。これは、Leech（1983）のポライトネスの原理の「是認の原則（Approbation Maxim）（b）他者への賞賛を最大限にせよ」の働きと合致し、配慮性を強めていると考えられる。このような配慮表現「全然＋肯定形」のさまざまな用例を整理することにより、「全然＋肯定形」の配慮のメカニズムを明らかにしていく。

5. 配慮表現「全然＋肯定形」の考察・整理

ここでは、名大会話コーパス・シナリオ・テレビ等の談話資料において、配慮表現「全然＋肯定形」が、どのような文脈で使用されているのか、発話機能論とポライトネスの観

点から整理した。表1は、配慮表現「全然+肯定形」を発話機能別に整理したものである。

表1 配慮表現「全然+肯定形」の発話機能

発話機能		用例
{演述}	《賞賛》	「(自信さなげに) ピアスあっているかな…？」
		「 <u>全然</u> かわいいし」
	《賛同》	「(自信なさげに) こういう企画って…どうかなあ？」
		「 <u>全然</u> いいと思うよ」
{策動}	《協力》のたたみかけ	「空港まで車で送りますよ」「なんか悪いなあ…」
		「 <u>全然</u> 大丈夫ですから、気にしないで」
	《勧誘》のたたみかけ	「今度来たとき、また鍋をしよう」「いつも悪いなあ」
		「 <u>全然</u> 家は <u>大</u> 歓迎だよ」
	《許可》	「この部屋でたばこ吸ってもいい？」
		「 <u>全然</u> いいよ」
{宣言}	《承認》(←《謝罪》)	「ごめんね」
		「 <u>全然</u> 平気」
	《承認》(←《感謝》)	「ありがとう」
		「いやいや、 <u>全然</u> 」 / 「 <u>全然</u> いいよ」
	《承認》(←《見舞い》)	「けが痛そうだね」
		「 <u>全然</u> 平気！」

表1のように、配慮表現「全然+肯定形」は、{演述}では《賞賛》・《賛同》で使用される。そして、{策動}では、《協力》・《勧誘》のたたみかけ、《許可》、最後に{宣言}においては、《承認》で使用されることを確認した。また、副詞「全然」のみの発話でも配慮表現として使用される場面もあった。これは、副詞「全然」には、配慮の機能が内在しており、文法的規則を破って表現される「全然+肯定形」は、副詞「全然」の配慮の機能が際立って表出されたものであると考える。ゆえに、「全然+肯定形」の配慮のメカニズムを探ることで、副詞「全然」の配慮の機能につながるものであると考える。

次節より、それぞれがどのような配慮を行っているのか、ポライトネスの観点からの考察を述べていく。

6.1. {演述}系

6.1.1. 《賞賛》の実例と考察

ここでは、「全然+肯定形」が《賞賛》として使用されている実例を考察していく。

【ピアスをしたことがないF.06に、F076がピアスをつけている場面】

(1) F 076 : 痛くないでしょう 全然。

F 106 : うん、全然痛くない。

F 076 : こっち 向いて。

F 076 : 全然かわいいし。

(名大会話コーパス)

〔発話機能〕《賞賛》

〔配慮〕聞き手の否定的想定という文脈を否定し、《賞賛》を強調している。

これは、二人の女性の談話で、ピアスをつけた経験のないF106に、F076がピアスをつけている場面である。この場面の直前にはF106が、自分は太っていて、夏に肌を露出する服を着たくないという自分の容姿に対して否定的評価の発話をしている。

ここでは、F106の「容姿に自身がなく、ピアスなど似合わないかもしれない」という不安を、F076は、副詞「全然」が打ち消し、さらに「かわいい」という肯定的評価を強調している。肯定的評価の強調は、Leechの「是認の原則 (Approbation Maxim) : (b) 他者への賞賛を最大限にせよ」の働きと合致し、配慮性を強めていると考えられる。ここでは、聞き手に関する否定的評価の想定を打ち消すことにより、相手に対する肯定的評価を強調しているという配慮が働いている。

6.1.2. 《賛同》の実例と考察

次に《主張》における応答のひとつである《賛同》における副詞「全然+肯定形」の対人機能について考察していく。

(2) F128 : でもさあ、ど、そういうのってどうやってさあ、なんかすごい聞きにくいと

思うんだけど、どうやって聞いたらいいか。

F128 : ハワイはどうって？

F107 : 別にいいんじゃない。

F107 : なんか私たちはテロのことがやっぱすごく心配なんだけどー、ハワイってどんな感、どんな感じでいいんじゃない。

F107 : 全然いいと思うよ。

(名大会話コーパス)

〔発話機能〕《賛同》

〔配慮〕聞き手の否定的想定という文脈を否定し、《賛同》を強調している

これは、F107とF128の談話である。テロがあったため、F128はアメリカに行った友人の安否確認をしたいのだが、その上手な聞き方が分からず、F107に相談をしている場面である。しかし、そこでF128は「ハワイはどうって？ (聞いたらいいのかもしれない)」と自ら提案し、F107にその見解を《主張要求》している。この文脈を見る限り、F128が自ら行った提案に対し自信を持っているようには読み取れない。それに対し、F107は、F128の提案した聞き方に対し、「全然いいと思うよ」と発話して、F128の「自分の提案した聞き方に自信がない」という否定的想定を否定し、《賛同》を最大限に強調している。これは、Leechの「一致の原則 (Agreement Maxim) : (b) 自己と他者との意見一致を最大限にせよ」

に沿った働きをしている。

6.2. {策動}系

6.2.1. 《協力》のたたみかけの実例と考察

(3) 自転車に跨がるマサル。 マサル「今日はありがとうございました。乗って下さい。 俺、送りますから」 ノブ子「……」 マサル「(笑って) <u>全然大丈夫</u> っすよ」 ノブ子「じゃあ……」 <p style="text-align: right;">(ノン子)</p>
[発話機能] 《協力》のたたみかけ [配慮] 与益にかかる自分の負担が小さいことを述べ、相手に気を遣わせまいとする配慮

この場面では、マサルがノブ子に「ノブ子を自転車に乗せて家まで送る」という《協力》を申し出ている。《協力》は、相手に利益を与える「与益」である。「与益」は、「相手のために行う行為だから、相手との関係をより良好にしようとする話し手自身の積極的フェイスを満足させる。しかし一面、相手に気を遣わせてしまい、相手の積極的フェイスを脅かす恐れがある（山岡他（2010：179））」。

つまり、この場面でのマサルの《協力》はノブ子に対する「与益」にあたるため、ノブ子は「マサルに負担をかけてしまうのではないか」と気遣い、すぐに《協力》に応えようとしないである。そこで、マサルは、「全然大丈夫だ」と発話することで、「マサルに負担をかけるかもしれない」というノブ子の想定を打ち消し、さらに自分の負担が小さいことを強調し、ノブ子の気遣いを極力軽減しようとしている。これは、山岡他（2010）の配慮表現の原理（B②-b）「自己の負担が小さいと述べよ」の原則に沿うものであり、相手に気を遣わせまいとする積極的ポライトネスの働きをしている。

6.2.2. 《勧誘》のたたみかけの実例と考察

(4) F 021：今度来たとき鍋やろうよ。 F 021：(やろう、やろう) (いいねー) うちならさー、雑魚寝して寝ても <u>全然いい</u> から。 <p style="text-align: right;">(名大会話コーパス)</p>
[発話機能] 《勧誘》のたたみかけ [配慮] 自分の負担が小さいことを述べ、相手に気を遣わせまいとする配慮

これは女性3人の雑談で、F021が、F067とF128に対して、「F021の家で鍋を一緒に鍋をすること」を《勧誘》している場面である。さらに「うちならさー、雑魚寝して寝ても全然いいから。」と《勧誘》をたたみかけている。

ここでの《勧誘》は、F021の家に集まって鍋をするという内容であり、当該行為の実行はF021の部屋を提供するという内容も含むため、他の二人に対して利益を与える「与益」

の一種であると考えられる。相手に対する「与益」は、上述したように、FTA となり得るため、F067 と F128 には、「F021 に負担をかけてしまうかもしれない」という気遣いが想定される。そのような気遣いに対し、F021 は、「雑魚寝して寝ても全然いいから」と発話することで、F067・F128 の気遣いを打ち消し、自己の負担が少ないことを強調している。これも、《協力》のたたみかけと同じく、配慮表現の原理 (B②-b) 「自己の負担が小さいと述べよ」の原則に沿った積極的ポライトネスの働きをしている。

6.2.3. 《許可》の実例と考察

(5) 会場を満員にした 50 人ほどの出席者のうち、一人がおずおずと口を開いた。

「あのう、写真撮っていいですか」

杉村太蔵衆議院議員が、目を丸くして人なつこい笑顔で答える。

「もちろんもちろん。全然いいですよ。写真、撮ってください」

みんなが安心したように笑い、携帯電話を太蔵クンに向ける。会場の緊張が一気に解けた。

(『週刊アエラ』2005 年 11 月 21 日)

〔発話機能〕相手の《許可要求》に対する《許可》

〔配慮〕与益にかかる自分の負担が小さいことを述べ、相手に気を遣わせまいとする配慮

これは、若者の意見を聞こうと開いた集会での杉村太蔵衆議院議員と出席者とのやりとりである。この場面では、出席者の一人が、杉村議員に「写真を撮ること」への許可を要求し、杉村議員が《許可》をしている。出席者が「写真を撮ること」は、杉村議員の自分の領域を他者に邪魔されたくないという消極的フェイスを脅かす FTA であるため、出席者はおずおずと申し訳なさそうに《許可要求》をしたのである。出席者には「杉浦議員に負担をかけてしまうかもしれない」という気遣いの想定がされる。それに対して、杉村議員は「全然いいですよ」と発話することによって、その想定を打ち消すとともに、自己の負担が少ないことを強調している。これも、配慮表現の原理 (B②-b) 「自己の負担が小さいと述べよ」の原則に沿い、積極的ポライトネスの働きをしている。

6.3. {宣言} 系

6.3.1. 《謝罪》に対する《承認》の実例と考察

(6) 【食事中に、F021 は F067 に明太子を渡そうとしている】

F021: あっ、ぼろぼろになっちゃった。

F021: ごめん。

F067: うん、全然平気。

(名大会話コーパス)

〔発話機能〕相手の《謝罪》に対する《承認》

〔配慮〕謝罪の必要性を打ち消し、与害者側の心理的負担（貸し状態）を軽減する配慮

これは、食事中の二人の女性のやりとりである。F021 は、F067 に明太子を渡そうとする際に、ぼろぼろと崩してしまい、F067 へ《謝罪》をしている場面である。《謝罪》をしている F021 には「不利益を与えてしまった」という「貸し状態」である心理的負担が存在する。その心理的負担に対して、F067 は、「(私は) 全然平気だ」と発話して、相手の心理的負担を軽減しようとしている。ここでの「全然+肯定形」は謝罪の必要性を打ち消し、

また、自己の負担が小さいことを強調することで、与害者側の心理的負担を最大限に軽減しようとする配慮を行っている。これは、配慮表現の原則（B②-b）「自己の負担が小さいと述べよ」に沿った表現であり、先述した{策動}と同じ配慮をしている。

また、このような場面においては、「全然」に後続する語がなくとも、配慮した《承認》となる。例えば、「ごめんね」「いやいや、全然」などがそうである。

6.3.2. 《感謝》に対する《承認》の実例と考察

本稿では、「全然+肯定形」に焦点当てて考察しているが、下記のような用例も日常的に使用され、配慮表現として機能しているため、考察をすすめていく。

<p>(7) じゅん平「俺はりこの事が好きやねん。だからあした待ってるし。ホンマに素直な気持ちで答えを聞かせてください。」</p> <p>りこ「はい」</p> <p>りこ「ありがとう」</p> <p>じゅん平「ありがとね」</p> <p>りこ「いやいや<u>全然</u>」</p> <p style="text-align: right;">(あいのり 2005.02.07 放送)</p>
<p>[発話機能]:《感謝》に対する《承認》</p> <p>[配慮]:感謝の必要性を打ち消し、感謝の必要性を打ち消し、受益者側の心理的負担(貸し状態)を軽減する配慮</p>

これは、じゅん平（男性）と、りこ（女性）の二人の会話である。ここでは、じゅん平が、りこに告白をし、その返事を明日聞かせてほしいと、りこにお願いをしている場面である。りこは、それを受け入れ、さらにじゅん平が告白したことに対して《感謝》している。そこで、じゅん平も告白を聞いた、りこに対し「ありがとうね」と《感謝》している。その発話を受けて、りこが「いやいや全然」と謙遜しながら、じゅん平の《感謝》を《承認》している。このような謙遜表現は、「引越しを手伝ってくださって、ありがとうございます」「いいえ、何もありませんでしたが…」の「いいえ」と同じように、形式上は、《拒否》であるが、相手の《感謝》を《拒否》したわけではなく、配慮表現の原則（B②-b）「自己の負担が小さいと述べよ」に沿って配慮しながら《承認》している。ここでは、「利害の不均衡」を保つため、受益者の感謝の必要性を打消し、その心理的負担（貸し状態）を軽減する配慮がされている。

6.3.3. 《見舞い》に対する《承認》

6.3.3.1 《見舞い》の定義

山岡（2004）・山岡他（2010）では、《見舞い》という発話機能が出てくるが、その語用論的条件の詳細は書かれていない。暫定的に、その語用論的条件を以下のように規定する。

{表出}:

《見舞い》

目的: 参与者 B の不利益 に対して、参与者 A が参与者 B に共感的心情を伝達すること

語用論的条件：① 参与者 B が現に不利益を被っていること

用例：「事故で骨折した足、まだ辛そうだね」 / 「大丈夫ですか？」

次節では、この《見舞い》に対する《承認》で使用される配慮表現「全然＋肯定形」について考察していく。

6.3.3.2. 《見舞い》に対する《承認》の実例と考察

(8) 【DAI (男) が、TV 番組の企画で恋愛をするために旅をしているにも関わらず、

恋愛できない栄子を心配し、呼び出して、声をかけている】

DAI 「どう？辛いっしょ」

栄子 「大丈夫。全然平気だから」

DAI 「本当？辛かったら辛いって言わないと」

栄子 「でもこの年になるとたぶん男の理想が高くなってんのよ」

(あいのり 2005.07.14 放送)

[発話機能]：相手の《見舞い》に対する《承認》

[配慮]：心配の必要性を打ち消し、相手の心理的負担を軽減しようとする配慮

これは、DAI が栄子の辛い状況を案じて、声をかけている場面である。DAI の「どう？辛いっしょ」という発話は、現在、辛そうにしている栄子に対し、その心情に寄り添おうとし、共感的心情を伝達している。この発話は、その目的が「参与者 B の不利益に対して、参与者 A が参与者 B に共感的心情を伝達すること」であり、「参与者 B が現に不利益を被っていること」という語用論的条件を満たしているため、先に規定した《見舞い》にあたる。そのような DAI の共感的心情を受けて、栄子は「全然平気」と発話することで心配の必要性を打消し、栄子の心理的負担が少ないことを強調し、DAI の心理的負担を軽減しようとしている。これは、配慮表現の原則 (B② - b) 「自己の負担が小さいと述べよ」に沿った表現である。

6.4. まとめ

本稿では、「全然＋肯定形」の文脈的否定を中心に、その配慮性を発話機能論とポライトネス理論を援用し、「名大会話コーパス」・シナリオ・テレビ等の用例で考察してきた。

その結果、「全然＋肯定形」は、聞き手の想定内容を否定することによって、配慮がなされていることが明らかとなった。また、発話機能別の配慮としては、{演述}の《賞賛》《賛同》では、Leech の「是認の原則 (Approbation Maxim) : (b) 他者への賞賛を最大限にせよ」・「一致の原則 (Agreement Maxim) : (b) 自己と他者との意見一致を最大限にせよ」、{策動}・{宣言}においては、山岡他 (2010) の配慮表現の原理 (B② - b) 「自己の負担が小さいと述べよ」に沿って使用されるというメカニズムを明らかにした。それらをまとめたものが表 2 である。

今後は、副詞「全然」の用例も視野に入れ、副詞「全然」における配慮のメカニズムの解明を行なっていく。また、今回の不十分な考察に関しても、今後の課題としたい。

表2) 配慮表現「全然+肯定形」の配慮のメカニズム

発話機能		想定内容	配慮に関わる原則群	配慮のメカニズム	用例
〔演述〕	《賞賛》	聞き手に関わる否定的評価	是認の原則 ----- (b) 他者への賞賛を最大限にせよ	聞き手の否定的想定を否定し、《賞賛》を強調する配慮	「(自信さなげに) ピアスあっているかな…？」 ----- 「 <u>全然</u> かわいいし」
	《賛同》		一致の原則 ----- (b) 自己と他者との意見一致を最大限にせよ	聞き手の否定的想定を否定し、《賛同》を強調する配慮	「(自信なさげに) こういう企画って…どうかなあ？」 ----- 「 <u>全然</u> いいと思うよ」
〔策動〕	《協力》 のたみかけ	話し手の与益に関わる聞き手の気遣い	配慮表現の原理 (B②-b) 「自己の負担が小さいと述べよ」	与益にかかる自分の負担が小さいことを述べ、相手に気を遣わせないとする配慮	「空港まで車で送りますよ」 ----- 「なんか悪いなあ…」 ----- 「 <u>全然</u> 大丈夫ですから、気にしないで」
	《勧誘》 のたみかけ				「今度来たとき、また鍋をしよう」 ----- 「いつも悪いなあ」 ----- 「 <u>全然</u> 家は <u>大</u> 歓迎だよ」
	《許可》				「この部屋でたばこ吸ってもいい？」 ----- 「 <u>全然</u> いいよ」
〔宣言〕	(《承認》) (《謝罪》)	聞き手の心理的負担	配慮表現の原理 (B②-b) 「自己の負担が小さいと述べよ」	謝罪の必要性を打ち消し、与害者側の心理的負担(貸し状態)を軽減する配慮	「ごめんね」 ----- 「 <u>全然</u> 平気」
	(《承認》) (《感謝》)				「ありがとう」 ----- 「いやいや、 <u>全然</u> 」 / 「 <u>全然</u> いいよ」
	(《承認》) (《見舞い》)				心配の必要性を打ち消し、聞き手の心理的負担を軽減する配慮 ----- 「 <u>全然</u> 平気！」

参考文献

- 足立広子 (1990) 「副詞「全然」の用法について」『南山国文論集』14 南山大学国語学国文学会
梅林博人 (1994) 「副詞「全然」の呼応について (現代語のゆれく特集)」『国文学解釈と鑑賞』
59 (7) 至文堂 103-110
——— (1995) 「「全然」の用法に関する規範意識について」『人文学報』266 東京都立大学人
文学 35-53
岡崎晃一 (2008) 「「全然」考」『親和国文』43, 神戸親和女子大学国語国文学会, 左 1-21
尾谷昌則 (2007) 「構文の確立と語用論的強化-「全然～ない」の例を中心に」『日本語用論学会
大会研究発表論文集』24 日本語用論学会 17-24
——— (2008) 「アマルガム構文としての『「全然」+肯定』に関する語用論的分析」『言葉
と認知のメカニズム-山梨正明教授還暦記念論文集』ひつじ書房 103-115
小林賢次 (2004) 「全然いい」北原保雄編『問題な日本語』大修館書店 17-21
新野直哉 (1997) 「「全然」+肯定」について」佐藤喜代治編『国語論究 6 近代語の研究』明治
書院 258-286
——— (2011) 『現代日本語における進行中の変化の研究-「誤用」「気づかない変化」を中
心に-』ひつじ書房
野田春美 「「全然」と肯定表現の共起」『計量国語学』22 (5) 計量国語学会 169-182
服部匡 (2007) 「大規模コーパスを用いた副詞「全然」の共起特性の調査: 朝日新聞と Yahoo!
知恵袋の比較」『同志社女子大学学術研究年報』58 同志社女子大学 1-8
松浦純子・永尾章曹 (1996) 「「全然」と「全く」について-陳述の副詞についての考察-」
『国語国文論集』26 安田女子大学日本文学会国語国文論集編集室 1-10
山岡政紀 (2004) 「日本語総点検 46-謝罪表現の形式と配慮」『月刊言語』33 (11) 大修館書店
116-117
——— (2008) 『発話機能論』くろしお出版
山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現-日本語語用論入門-』
明治書院
Brown, P., and S. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language Usage*, Cambridge:
Cambridge University Press. (邦訳: 田中典子監訳 (2011) 『ポライトネス-言語使用に
おける、ある普遍現象』)
Leech, G. (1983) *Principles of Pragmatics*, Longman. (邦訳: 池上嘉彦・川上誓作訳 (1987)
『語用論』紀伊國屋書店)

用例出典

- 1 名大会話コーパス
- 2 『'08年鑑代表シナリオ集』「ノン子 36歳 (家事手伝い)」宇治田隆史原作・脚本 (2009年
9月30日)
- 3 「あいのり」フジテレビ (2003/7/14 放送)・(2005/2/07 放送)
- 4 『週刊アエラ』朝日新聞社 (2005年11月21日)

(齊藤幸一、創価大学教育・学習活動支援センター助教、ksaito@soka.ac.jp)